

令和3年度

施策評価表(令和2年度の実績評価)

記入年月日
令和 3 年 5 月 19 日

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	都市整備課	主管課長名	上野 俊一
5-2	施策名	景観の良い住環境の保全	関係課	ヤマザクラ課、地域開発課		

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象		対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
市民	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197	
			実績値	41,278	40,483	39,692	38,905		
			見込値						
			実績値						
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
住環境の維持と景観の向上が図られ、空き家が利活用されている。	①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合	%	目標値	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0	
			実績値	45.8	44.8	49.3	49.0		
	②定住支援事業の支援件数(5カ年累計)	件	目標値	20	50	70	90	110	
			実績値	33	65	95	129		
	③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合	%	目標値	63.0	63.5	64.0	64.5	65.0	
			実績値	48.2	43.8	43.3	44.9		
	④景観や空き家に関する利活用の相談件数(5カ年累計)	件	目標値	30	40	50	60	70	
			実績値	18	48	83	144		
			目標値						
			実績値						
成果指標設定の考え方		施策の対象である市民の対象指標は、「①桜川市人口」とする。施策の意図である「住環境の維持と景観の向上が図られ、空き家が利活用されている。」の成果指標は、「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」「②定住支援事業の支援件数」「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」とする。							
成果指標の把握方法と算定式等		対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合、③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、市民アンケートより求める。②定住支援事業の支援件数(5カ年累計)は、事業実績数より求める。④景観や空き家に関する利活用の相談件数(5カ年累計)は、実績件数より求める。							

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	☐ 成果がかなり向上した	☒ 成果がどちらかといえば向上した	☐ 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	☐ 成果がどちらかといえば低下した	☐ 成果がかなり低下した	
背景・要因	①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合は、前年度49.3%に対し、本年度49.0%で0.3%低下した。旧町村別割合を見ると、岩瀬地区52.3%、真壁地区43.3%、大和地区55.1%となっている。岩瀬・大和地区に比べ、真壁地区の値が低いのは、桜川市バス(ヤマザクラGO)が平成29年度中に運行が開始されたが、JR駅がないこと等、公共交通の脆弱性について今までのイメージに起因するものと考えられる。		
	②定住支援事業の支援件数は、前年度30件に対し本年度34件と予定目標を上回っている。平成27年度より開始した定住促進助成金制度が、確実に浸透したものと考えられる。		
背景・要因	③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、前年度43.3%に対し、本年度は44.9%で1.6%向上した。		
	旧町村別割合を見ると、岩瀬地区41.8%、真壁地区49.5%、大和地区47.1%となっている。真壁地区の値が、他地区より高いのは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることや、真壁のひなまつりについて、マスメディアに多数取り上げられているためと考えられる。		
背景・要因	④景観や空き家に関する利活用の相談件数は、前年度35件に対し、本年度件数が61件増加しており、空家に対する市民の関心が高まり、空家利活用のための空家バンクが少しずつ浸透している傾向と思われる。		
	②について予算は前年と同額であるが4件上回り、③についても1.6%市民アンケートの結果で上回った。④についても61件上回り、①については前年度より0.3%下回った。これらを総合的に判断すると、①については前年度から下回ったが、②③④については前年度より上回ったことから、成果がどちらかといえば向上したと評価した。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	☐ 目標値のすべてを上回った	☒ 一部の成果指標で目標値を上回った	☐ 目標値どおりの成果であった
	☐ 一部の成果指標で目標値を下回った	☐ 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合は、目標値64.0%に対し、実績値が49.0%で15.0%下回った。		
	②定住支援事業の支援件数は、目標値90件に対し、実績値が129件で39件上回った。		
背景・要因	③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、目標値64.5%に対し、実績値が44.9%で19.6%下回った。		
	④景観や空き家に関する利活用の相談件数は、目標値60件に対し、実績値が144件で84件上回った。		
背景・要因	①については市民アンケートにて少し低下したが、市民アンケートによるものであり、若干の低下はやむを得ないと判断する。		
	②④については大幅に目標を上回っており、また重要な指標のため、2つで目標を下回っているが、一部の成果指標で目標を上回ったと評価した。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
令和2年度成果があった活動は、「用途廃止に伴う住宅入居者の移転事業」および「景観まちづくり推進事業」である。用途廃止に伴う住宅入居者の移転事業については、市営番匠住宅の入居者4件と移転交渉し、通常退去1件と他市営住宅への住み替えを2件行った。景観まちづくり推進事業では、令和2年度から令和3年度の2ヶ年にて、景観計画区域で行われる建築物の建築等、工作物の建設、開発行為その他景観行政団体の条例で定める行為を届出、勧告制に係らしめ、良好な景観の形成の促進を図る景観計画策定を進めている。	引き続き番匠住宅の残り1件と移転交渉し、移転先の住宅の整備を行い、早期の借地の返還を目指す。また、次に移転を進める住宅の選定を行う必要がある。令和2年度においても、引き続き良好な景観の形成の促進を図る為、重点地区として3地区を設定し、景観計画策定を進める。定住促進については、令和3年度から5年間の継続事業とし、市外からの移住・定住の確保と地域活性化を目的に、住宅取得助成金制度を行っていく。伝統的建造物群保存地区審議会運営事業、伝統的建造物群保存地区保存事業、歴史的風致形成建造物修理事業については、審議会に諮りながら修理・修景工事を行い、景観の維持・向上を図っていくことが重要である。今後の課題としては、個人財産がほとんどであるため、更なる理解・協力が必要となってくる。